

氏 名	矢 嶋 裕 樹
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 3315 号
学位授与の日付	平成19年3月23日
学位授与の要件	医歯学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	The Effects of Caregiving Resources on the Incidence of Depression over One Year in Family Caregivers of Disabled Elderly (要介護高齢者の家族介護者における1年間の介護資源が抑うつ発症に与える影響)
--------	---

論文審査委員	教授 黒田 重利 教授 筒井 公子 助教授 吉永 治美
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

本研究は、要介護高齢者を介護する家族の身体的、心理的、社会的資源の保有状況と1年後の抑うつ発症との関連性を要介護者との続柄別に明らかにすることを目的とした。S 県 O 市において要介護認定を受けた高齢者の主介護者 1,141 名を対象に、質問紙調査を1年間隔で2回実施した。本研究では、初回調査時において抑うつ症状がなかった女性介護者 235 名を分析対象とした。初回調査時の各種資源の保有状況を独立変数、1年後の抑うつ発症の有無を従属変数とした多重ロジスティック回帰分析の結果、次のことが明らかとなった。1)「妻」介護者において、心理的資源の指標とした介護役割満足感が低いほど、介護継続意思が強いほど、抑うつ発症のリスクが高かった。2)「娘」介護者において、介護役割満足感が低いほど、抑うつ発症のリスクが高かった。3)「嫁(義娘)」介護者において、身体的資源の指標とした身体的健康が低いほど、介護継続意思が低いほど、社会的資源の指標である情緒的サポートネットワークが小さいほど、抑うつ発症のリスクが高かった。以上の結果は、介護者が保有する資源の抑うつに与える影響が続柄によって異なることを示唆しており、介護者への支援策を考えていく際には、この点を踏まえる必要がある。

論文審査結果の要旨

我が国では人口の高齢化に伴い、認知症者そして要介護高齢者は激増し、家族、介護者は日々の介護で大変である。本研究は、ある地区の家族介護者を対象に一年間の間隔で抑うつ発症に関して要介護高齢者との続柄と身体的、心理的、社会的要因との相関を検討したものである。その結果、1)妻介護者は介護役割満足感が低い、2)娘介護者は同じく介護役割満足感が低い、3)嫁介護者は身体的健康が低い、介護継続意思が低い、情緒的サポート網が低いときに、抑うつを発症しやすかった。このことは、抑うつ発症には介護者の身体的、心理的、社会的因子の介護資源が続柄により異なることという重要な知見を得ており価値ある業績であり、さらに今後の介護者支援策に参考になる。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。